

2021年度事業計画

1. 基本方針

2021年度日本包装学会では、「包装学の深化と体系化、社会の要請に応える開かれた学会づくり、包装分野を担う次世代人材の育成、国際化の推進」を主な柱に、「ポストコロナを見据えた」事業を展開します。具体的事業としては、会員相互の研究情報の交換・啓発のための研究発表会、シンポジウム、各種研究会等の開催、並びに学会誌「日本包装学会誌」の刊行などです。以上の目標を実現するために、以下の方針を立てます。

「社会提言を含む情報発信機能強化」

これまで裾野の広い包装分野を対象にした学術団体として、たとえば「環境負荷を低減化する次世代型社会生活を支える容器包装のあり方」について学術・技術的視点で研究成果等が独立して発信されてきましたが、より分かりやすく見える化された社会・政策提言として情報発信していく形式等を検討します。

「産官学共同プロジェクト促進」

産業界との結びつきが強い学会の特色を生かした産官学共同プロジェクトへのサポートや、研究題材を発掘できる産官学交流の場の提供、およびその成果を発表しやすい雰囲気づくりを目指します。

「女性や学生を含む若手が主役である学会体制の構築」

委員会におけるメンバーとして積極的に女性・学生を含む若手会員を抜擢し、新規若手・学生会員増強と会員平均年齢の引き下げに努力します。特に、学生会員のキャリアパスとして包装関連企業技術担当会員と交流できる場を設けるなど、維持会員入会の新しいインセンティブとして検討します。

「国際化の推進」

リモート形式の研究発表会・技術講演会等がコロナ禍の影響によってその欠点を小さくしていきながら急速に普及し、公表論文等の刊行物も電子化されほぼリアルタイムで全世界に共有化されつつある時代において、当学会として他の(国際)学術団体や関連(国際)ジャーナルとの連携の在り方等について検討します。

2. 学会の運営計画

2-1. 回通常総会

メール配信、web審議等による開催を計画する。

2-2. 理事会

2回(例年の年次大会時は見送る)の開催とする。

2-3. 会長補佐会議

COVID-19 感染状況に応じて、2回または3回開催の予定とする。ただし、緊急性の高い審議事項のある場合は、臨時に開催するものとする。

3. 各委員会の活動計画

3-1. 編集委員会

- 学会誌Vol. 30 No. 4を30周年記念号として企画する
- 論文投稿・査読に関する倫理規定(案)を理事会に提案する
- 引き続き時機を得た特集を掲載してゆく
- 女性委員の活躍の場をさらに拡大してゆく
- 会員にニーズが高く有益な情報を学会誌に紹介してゆく
- 引き続き論文投稿を促進するとともに、総説を少なくとも年に2回を目標に掲載する
- 上記に基づく会員増に努める

3-2. 企画委員会

(1) シンポジウムを2回以上開催する。

- 第83回:2021年6月11日に開催見込み
- 第84回:2021年11月18日に医薬品関連について4、5題(準備進行中)
- 第85回:、2021年02月頃「未定(4~5題)」

(2) 各シンポジウムの企画および状況に関する確認と委員間の意思統一を図るため、企画委員会を3回以上開催する。

- 第135回以降:2021年5月17日実施、8月末から9月上旬/予定、12月上旬/予定、2022年2月予定(主に2022年度向け)
- その他、必要と認められる場合

(3) 企画立案の参考とするため、アンケート調査を最低1回実施する。

- オンラインシンポジウムおよび会場/オンラインのハイブリッドシンポジウムの実現可能性について、費用対効果、その他メリット/デメリットの双方の観点から情報収集

3-3. 研究委員会

(1) バリア材料研究会

- 第25回バリア材料研究会の開催
- 米国、欧州、日本/アジアの各極にメンバーと拠点を持つ強みを生かした情報交換や人材交流

(2) 輸送包装研究会

- 輸送包装ディスカッション2021の開催
- 輸送包装ディスカッションなどの情報交換や人材交流の場を提供

(3) 包装とIoT研究会

- 包装とIoT研究会につき今後どうすすめるかを、8月目途に既存会員で検討
- 「情報ITネットワーク社会における包装」という切り口から、モノのインターネット、クラウドコンピューティングを含めて包装の新領域を開拓する技術者の支援

(4) 若手の会

- 用語集の出版および周知活動
- 学会の振興と学会誌への投稿数の増加につながる活動を継続して実施

(5)その他

広報委員会、編集委員会との連携により、研究会イベント開催案内(Web サイト掲載、メールマガジン配布、学会誌への案内)を効率的に行う。

3-4. 大会運営委員会

(1)第30回年次大会

- 第234回 2021年 4月 6日 Web会議審議
- 第235回 2021年 5月11日 Web会議審議
- 第236回 2021年 6月 8日 Web会議審議
- 大会1日目 2021年 7月 1日 口頭発表(ZOOMウェビナー)
- 大会2日目 2021年 7月 2日 口頭発表(ZOOMウェビナー)
 - 口頭発表オンデマンド配信(Webサイト掲示) 大会終了後(日程調整中)～7月30日
 - ポスター発表(Webサイト掲示)2021年7月1日～30日
 - 質問フォーム受付 2021年7月1日～30日
 - 質問フォームに対する発表者回答 2021年8月中旬公開予定
 - 以降の日程詳細は未定(2021年9月 アンケート集計等まとめの予定)

(2)第31回年次大会

- 日程:2022年7月21日、22日
- 会場:社会情勢を踏まえ、開催方式含め、今後検討していく

3-5. 広報委員会

(1)Web関連

Webページ更新作業、メール配信作業を中心に活動する。ただし、各委員会から要望が発生した場合は柔軟に対応していく。

(2)東京パック対応

東京パック2022の計画にあわせて、柔軟に対応していく。

3-6. 国際交流委員会

メール審議を主として、以下の活動を実施していく。

- 「海外情報」の学会誌掲載
- 海外の研究者から学会誌への投稿推進
- IPS'22の開催計画をすすめると同時に開催できないときの計画策定

3-7. 学会賞等選考委員会

年度末までに、学会賞、奨励賞、論文賞、功労賞について、授賞選考を行う。

3-8. 財務委員会

- 支出削減による収支バランスの健全化
- 毎月の財務状況確認による健全な財務運営
- 各委員会活動を支援可能な予算の作成。

3-9. 総務委員会

総会、理事会、会長補佐会議の事務局として、効率的な学会運営を進める。学会活性化、財務健全化に向け、会長補佐会議、理事会での討議を進めていく。